

事業所における自己評価総括表

○事業所名	日野市発達・教育支援センター エール 児童発達支援事業 通園「きぼう」			
○保護者評価実施期間	令和6年11月27日 ～ 令和7年1月16日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39	(回答者数)	33
○従業者評価実施期間	令和6年12月1日 ～ 令和7年1月16日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数)	29
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月24日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○伝達方法や限られた生活空間の利用等、お子さんの実態に合わせた配慮・工夫がされている。	○お子さんの実態を見極め、視覚支援や構造化等工夫している。	○生活空間や人手、予算等限られた中で、より良い方法や環境整備を考え合い、実践していく。
2	○職員とお子さん・保護者の関係が良好である。	○お子さんの園での様子を知っていただいたり互いに話をしたり、共通理解を様々な方法で図っている。（面談や見学・参加日 連絡帳や電話 手紙や写真の配信等）	○活動や取り組みを見直し、精選を図っていく。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○他の施設の園児等との直接交流がほとんどない。	○(特性や基礎疾患等) 色々なお子さんがおり、個々を配慮しつつ、園全体としてどうするかが判断しにくい。 ○無理なく互恵があったうえで、相手方と交流するにはどんな方法で行えるか検討が必要。	○どんな方法で行えるか、他所の取り組みを調べたりアイデアを出し合ったりして探る。
2	○（利用児の）きょうだいへの支援活動がほとんどない。	○きょうだいの年齢差や人手の問題等、活動を行うには課題がある。	○きょうだい支援の具体的実践を調べる等、できそうな活動を探る。
3			